

東日本大震災ボランティアの経験

大津市 S.Y & S

日本中を震撼させた東日本大震災から約1年半が経つ。「現場はその後どのようなになっているだろうか。被害に遭われた皆さんはどのようにお暮らしであろうか。要請に応じて色々な物資を送っているが、それだけで良いのだろうか。」そんな思いが去来している。そして、「見に来るだけでも良いから、見に来てほしい」と聞いた事がずっと心にあった。それで今年のお盆休暇は被災地へ出かける事にした。物だけ送っていてもだめだから、先ず見に行こう。そして、自分に出来る事があればしよう。その取っ掛かりをどのようにしようかと思い、とりあえずインターネットで検索した。ゴールデンウィークに現地へボランティアで行かれた女性がたちあげている活動があった。連絡した所、以下の様なスケジュールが送られてきた。その仲間として参加する事にした。

あくまでも予定ですので、現地における諸事情により変更、キャンセルもありますので、予めご了承ください。

8月12日

広島駅改札口13時出発 岡山駅全日空ホテル前12時出発 新大阪駅バスターミナル21時経由(車内泊)

8月13日

気仙沼着(午後)

・気仙沼本吉被災地ガイド

お盆納涼企画準備ボランティア・気仙沼海岸瓦礫撤去・海岸清掃ボランティア

避難所体験(水汲み・火起こし・薪割り・シーフードバーベキュー野外炊飯)

小泉自然楽校ドームハウス泊

8月14日

気仙沼海岸瓦礫撤去・海岸清掃ボランティア

小泉公民館主催スイカ種飛ばし気仙沼大会

地域の方との交流

お盆納涼企画へ参加型ボランティア活動(BBQ、プチ花火大会)

地域の方々との夜なべ談義

小泉自然楽校ドームハウス泊

8月15日

小泉自然楽校ガイド

気仙沼海岸瓦礫撤去・海岸清掃ボランティア

避難所体験(小泉老人クラブと宮城郷土郷里野外炊飯)

南三陸地区被災地ガイド

伊里前商店街お買い物、南三陸町志津川地区被災地ガイド

南三陸ホテル観洋温泉入浴

志津川サンサン仮設商店街にて各自夕食

21時出発(車内泊)

8月16日

・新大阪バスターミナル13～14時着

参加して体験したこと、感じた事

・どんな人たちが参加しているのだろうと思いながら、新大阪からバスに乗り込んだ。約40人の参加者で、その内リピーターが7人いて、その人たちが企画や世話をしてくれている。年齢は若い人が半分位、自分たちが1番上位であった。高校生までは保護者付き添いが必要条件であるので、小学生は親と一緒に、高校生は大学生の兄弟と一緒に参加していた。多くの若い人がいたので、日本の未来も捨てたものではないと、とても嬉しい気持ちになった。又、被災地では高校生のグループがボランティア合宿をされていたり、若い人の活動が多くあった。

・1日の活動は午前6時～午後10時位で、割合ハードであった。10時を過ぎても被災された方と話したり出来たが、翌日の活動にさしさわるので、この時間帯で活動した。

・被災地の海岸近くは電車の線路も無くなったり等、壊滅的な打撃を受けているのに、高台は普通で、津波の怖さを感じた。樹木も津波を被った幹は色が変わっており、こんなに高くまで津波が押し寄せていた事に改めて驚いた。

・「防災センターへ避難して下さい」と言われたので避難したのに、その防災センターが流されて多くの方が死んでしまったと、悔しさを交えて話されたのは、身につまされた。

・被災地体験では、お風呂を薪で沸かししたりしたが、入浴しても水は一人1杯ずつしか使えず等、当時の生活がどんなに大変であったかが推測できた。又、トイレの使用も限られていて、匂いがこもっていたとの事であった。

・海岸の礫撤去や清掃という平常の活動に加えて、今回はお盆の納涼祭りを準備した。地元の方たちも郷土料理を作って下さったり、被災地の方と共にお祭りを楽しみ、和やかな心温まる交流が出来た事はとても良かった。震災時の話を伺って、本当に紙一重で生きていられることを実感した。「都会の人はもっと怖いと思っていたのに、良い人たちだね。又来てね」等、お婆さんに言われて交流の大切さを実感した。

・仮設商店街での買物や飲食等で、被災地を助けるという事がプログラムに組み込まれていた。その事を通して被災された方が力強く立ち上がっていただけることを感じ、こちらが元気を貰った。

・宿泊はボランティア用に設置されたドームハウスで、お互いに場所を譲り合ったり等決して広くはなかったが、くしくもそこは日本サーブスペースセクレタリーのTさん、又0議員の関係されている所であった。自分が送った食器も使われていて、びっくりであった。

・政府は津波が押し寄せてきても大丈夫なように、高い防潮堤の建設を予定しているが、地元の方は海の見えない暮らしなんて考えられない。津波が来たら逃げるから、海の見える暮らしが続けられるようにしてほしいと言われていた。

・最後に皆さんに言いたい。世界にはたくさん魅力的な所がある。そういう所への旅行も良いが、それは何時でも行ける。今しか見られない現地をどうぞ体験して下さい。そして、自分たちも又機会があれば再訪したいと思っています。



写真の説明：中学校の隣の小学校の駐車場に記念碑が建てられました。駐車場の左側は350世帯の家があった所で、ガードレールのすぐ下まで水が迫ってきたと言います。

(写真提供 T.N様)

